

野戦郵便局員・廣瀬五郎宛ての軍事郵便 「戦陣の糧」



(簿冊表紙)「戦陣の糧」(整理番号：2804-0001)

〈解題〉

野戦郵便局員の軍事郵便への関心

この軍事郵便に私が注目したのは、郵政博物館収蔵の軍事郵便であることはもちろんであるが、東京中央郵便局員から戦地にある野戦郵便局に転勤し、そこで仕事をしている郵便局員が、現地を受け取ったものであることも理由の一つである。残されてきた軍事郵便の中でも、野戦郵便局員自らにかかわる郵便は、数少ない。これまであまり紹介されたこともない。そうした研究状況のなかで、彼らが現地でのようなネットワークを持ち、どんな仕事をしているのか、また、銃後の人々とどんなコミュニケーションをとっていたのか、命の危険にさらされている戦地という特別な環境の

中で、郵便の仕事をしてきた職員の心情はどうだったか、あるいは郵便のやりとりのなかで、野戦郵便局員であることの特別な処遇などはあったのかなど、私が抱いていたいくつかの興味深い問題に、このリアルな手紙から迫れるのではないかと考えたからである。

冊子『戦陣の糧』と廣瀬五郎について

この冊子は、中国の東部、武進県常州（現中華人民共和国江蘇省常州市）にあった「中支第三〇野戦郵便局」員である廣瀬五郎が、昭和一六年（一九四一）〜同十七年（一九四二）にかけて、現地で受け取った軍事郵便の一部を、本人手作りの冊子に、差出人のわかる封筒の表と裏部分を貼りつけ、ハガキの場合は四隅に切り込みを入れて挟み込んで作成したものである。差出人の住所氏名だけを切り取って貼付してあるものもある。総

新井勝紘

数は六九六点を数えるが、郵便物の点数としては、二六一通と推測される。

ここでは、そのうちの郵便の内容がわかる八五点に絞って、紹介する。あとの部分は、封筒部分だけであり、中身の書状は未確認である。

冊子の表紙は、封書の裏部分の差出人名がわかる部分を切り取ったり、切手部分などを十数枚貼りあわせてある。標題は「戦陣の糧」と墨筆で記されたものが貼付してある。おそらく廣瀨自身がデザインしたものであろう。

また裏側は、廣瀨の東京の自宅宛て（「豊島区長崎二ノ一四」）に届いた封書の表書きが貼り付けてあり、さらにゴム印と思われる「中支派遣第三〇野戦郵便局 廣瀨五郎」と明記された印が押印されている（本稿末図版参照）。

この軍事郵便の受取人の廣瀨五郎についての個別調査を実施していないので、情報は軍事郵便などに記されている情報に限られる。

戦地に行く前は、東京中央郵便局電信課所属と推測される。家族は母・妻・男児の三人。実際に、東京中央郵便局員の元同僚などからの軍事郵便が残されていた。同僚であろうか、廣瀨の自宅を訪問し、家族の状況を報告しているハガキも残っている。

廣瀨にかかわる新聞記事

この冊子の中に新聞の切り抜きが挟み込んであった。上海で発行されていた日刊新聞「大陸新報」（第一〇三三三号）の昭和十六年（一九四一）一月一日の記事で、廣瀨五郎にかかわる記事

であった。家族が切り抜いておいた新聞であろう。記事の内容を紹介しておこう。見出しは「殊勲の局員——賊と乱闘、つひに引捕へ、介抱し憲兵隊に引渡す」とある。

「常州特信」野戦郵便局に侵入した匪賊を逮捕し、重要文書を守った勇敢な野戦郵便局員殊勲談がある。それは、十月三十一日午前四時頃のこと、武進県常州博愛門内の中支第〇〇野戦郵便局第〇分局に怪漢が侵入、番犬の鳴き声に、局舎に就寝中の局員廣瀨五郎氏は飛び出し、誰何したところ、賊は棍棒をもって抵抗して来たので、同氏は止むを得ず愛刀を抜いて、足部に一太刀浴びせるや、いよ／＼猛り立ち、大乱闘を演じた。

この騒ぎに出動した全局員の応援を得て、見事にとり押さへ、更に捕へた賊の傷口の手当てや親身の介抱をして、憲兵隊に引渡したが、流石の賊も温情に感泣した。この勇敢な職務忠実な精神は、同局内に賞讃の話題となっている。同氏は、東京中央郵便局に勤務中は、模範職員であり、東京には老母と妻、一人の子供を残して大陸に來ている。」

同記事には廣瀨の顔写真も掲載されており、家族にとっては、廣瀨の体の心配ははかりしれないが、「殊勲」と評されたこの行動には、誇りを持つことができたのではないだろうか。それに、国内の中央郵便局員としても、「模範職員」と報道されていることから、勤勉かつ真摯な職員であったことがわかる。

それにしても、この事件は、野戦郵便局員も自らの愛刀を持って、緊急事態に対処する場合があることの実例でもある。さらに、賊が何をねらって侵入してきたかはわからないが、棍棒と刀がぶつかり、賊が負傷する事態になったうえで、さらに「大乱闘」となり、野戦郵便局員総出でなんとか取り押さえることができたという。その後廣瀨らは、観念した賊の傷口の手当てと介抱を行なっていた。戦時下ではあるが、ここまで親身の手当てを行なうには、それまでの間に現地で普通に暮らしている住民と、それなりの関係を築いていたからといえよう。軍としての匪賊への対応は、まさに日本軍に敵対する存在として、一刀両断的な厳しい対処を行なった例もあるなかで、郵便局員という特別な立場が、こうした行動になったともいえよう。

差出人が廣瀨本人の手紙

この冊子の中で、45番の手紙だけが、差出人は廣瀨本人のものである。宛先は「館長」とあるが、どういう館の責任者かは、不明である。「陸軍」と印字された便箋三枚に記されたもので、検閲者であろう「津田」の印鑑が押印されている。出だしのところには、算用数字で405という番号と、9月12日と記されている。昭和十七年（一九四二）九月一二日と判断できる。この冊子自体は、廣瀨自身が受取人の郵便であり、例外として、この手紙だけが張りこんであったことの意味を考える必要がある。戦後、受取人の館長から、戻してもらったのであろうか。廣瀨自身が冊子にしようとした

目的や意味を考察する上でも、この手紙の存在は大きい。しかし、そのあたりのことは、現時点では不明である。

また、もうひとつこの手紙に注目する視点では、手紙の内容そのものを特記する必要がある。ここで少し内容をみてみよう。

まず、廣瀬は「通信の最前衛」という認識で、中国大陸に渡ったという理解をしている。そして実際に野戦郵便局で働いてみて感じたことを正直に記している。

軍事郵便の使命について、一般の国民にはいまだに関心が少ないことや、未知の人がいることを、「残念至極」となげき、「故国よりの便り」は、「心の糧」であり、「明日の戦闘の原動力」でもあると記している。それは「戦闘の士気」に「重大なる影響を及ぼす」ものであることを、「野戦局員として」……体験した」とも記す。そして、手紙は「弾丸」と同様で、「戦争には絶対必要である」と、彼の実体験から発する切実な思いが綴られている。故国の母からもらった郵便に「熱いものがとめどもなく流れ出るのを如何ともする事が出来なかった」と、純粹で正直な心情を吐露している。さらにこんな体験をするのは「一生を通じて」他にないだろうとも記している。

野戦郵便局員でさえ、こんな体験をしているのだから、戦線にいる将兵たちは、「どんなにか希求しているだろう。だからこそ、銃後の皆さんには「一枚のハガキでも手紙でも」送ってほしいと、「切望する」とも。

最後に廣瀬の詠んだ歌が、添えられている。待ちわびし 故国の便りの 嬉しさは

又よみ返し 又よみかへす

一通の便りを、なんどもなんども読み直している兵士のせつない心情をうたった短歌である。

受信した軍事郵便をまとめたこの冊子に、廣瀬自身が「戦陣の糧」と名付けた理由が、ここにはにじみ出ている。郵便局員の使命を十分に果たしているともいえよう。

郵便局関係者からのハガキ

八五通の中に、差出人が郵便局関係者が三一通ある。内訳は

- ①第三〇野戦局所属者から二通
- ②第三〇野戦局第二分局所属者から六通
- ③第三三野戦局所属者から二通
- ④第三九立所所属者から一通
- ⑤第四一野戦局所属者から一通
- ⑥第四二野戦局所属者から四通
- ⑦第四四野戦局所属者から二通
- ⑧第一〇二野戦局所属者から一通
- ⑨第一〇三野戦局所属者から一通
- ⑩第一四七野戦局所属者から一通
- ⑪支那派遣軍総司令部郵便総括部所属者から二通
- ⑫東京中央郵便局所属者から六通
- ⑬世田谷郵便局所属者から一通
- ⑭大阪中央郵便局所属者から一通

廣瀬が所属していた東京中央郵便局と、現在所属している第三〇野戦郵便局の同僚であろうか、

それぞれ六通づつ届いている。さらに第三〇野戦局の近くにある野戦局の仲間たちからのハガキが次に多い。おそらく国内にいた時の郵便関係の仕事で知り合った人物や、廣瀬が属している第三〇野戦局から別の野戦局に転勤や移動していった郵便局職員との情報交換や交流のハガキである。同じ郵便局員としての強い仲間意識の表れでもある。それに、移動や転勤の希望が記されているものもある。同じ局にあまり長くいないということだろうか。

たとえば、「〇〇が案外早いらしい噂」とか、「今度の〇〇では、君も何処かへ行くのではないか」とかいうように、帰還や転勤移動の情報が飛び交っていたことがわかる。また、「転勤に際し多大の御心配にあづかり」「転勤の様子はどうですか」「小生も早く海南線へ出たい」というように、移動に関しての希望的観測などがやりとりされていることがわかる。野戦郵便局員としては、出来るだけ条件のいいところに行きたいという希望をもち、人的ネットワークを十分に駆使しながら、人とのつながりを大事にしていることがわかる。同じ戦場にあっても、一般の兵士たちとは少し異なるように見える。

検閲のこと

八五通のうち、通常通り検閲印のあるハガキと、検閲印のないハガキが混じっている。

検閲印のあるハガキは、①野戦郵便局から、②特務機関から、③軍の部隊から、④軍総司令部郵便総括部から、廣瀬が属していた第三〇野戦郵便

局宛のハガキは検閲を受けていた。ただし、中には差出人と検閲印とが同一人物という例があった。中支第三〇野戦郵便局第二分局の通信書記の肩書のある矢ノ倉總八からのハガキには、矢ノ倉という検閲印が押印されていた。形式的に矢ノ倉の印を検閲印としたことだろう。

検閲印のないハガキは、①銃後の国内各地から、②東京中央郵便局員から、③世田谷郵便局員から、④大阪中央郵便局員から、⑤女学校の生徒から、⑥国民学校生徒から廣瀬宛てのハガキであった。国内の郵便局員からの郵便は、検閲を受けないで出せたことになる。また全国各地から個人が、野戦郵便局の廣瀬宛てに出したハガキも、なぜか検閲を受けていない。特例があったのであるうか。このあたりの事情についての詳細は、現時点では把握していないが、検閲を受けないで郵便が出せるといふことならば、軍事郵便の中身にも注目してみる必要があるだろう。

解読文について

ここでは、廣瀬宛ての軍事郵便八四通と廣瀬本人執筆の手紙一通を紹介した。調査、写真撮影、さらに解読などについては、郵政歴史文化研究会第二分科会のメンバー、西村健・宮崎翔一・磯部国良・北口由望・日置麗香、さらに小山弘子・都両名にも解読の協力を得たことを特記しておく。

【編集事務局 注記】

個人情報に配慮し、執筆者の了解を得たうえで翻刻の一部を以下のとおり伏字とした。

・(差出)に個人宅の住所が記載されている場合、番地部分を三倍角ダッシュ「——」に置き換えた。
・(差出)及び(本文)に氏名が記載されている場合、名前のみをイニシャルに置き換え、女性の場合には㊦を付記した。なお、矢ノ倉總八については氏名を原文通り掲載した。

〈翻刻〉

1

(検閲) なし

(消印) 「東京中央 17・3・2 后 418」

(宛先) 「中支派遣第三〇野戦局 廣瀬五郎様」

(差出) 「東京中央郵便局 越田 K」

(本文)

御通信三月二日儘に拝受、早速知人を通し其係の方へ依頼いたし置候、通信人としての御活動誠に感謝の外無之候。現地で何かと御不自由と御察し申上候折角御奮闘を祈上候。最早三月に入り気温も幾分上降いたし凌ぎ易く相成申候。右御返事申上候。

三月二日

(裏側写真絵はがき「大東京」 武士道の亀鑑 四十七士の墓(高輪泉岳寺))

2

(検閲) 「㊦(矢ノ倉)」

(宛先) 「中支第三十野戦局 廣瀬五郎様」
(差出) 「中支第三十野戦局第二分局西 E」
(本文)

廣瀬様

御親切なる御見舞状頂戴致し、有難く厚く御礼申し上げます。

自分も相変ず朗らか者です。

さて証明証の件、御親切なる御言葉戴き喜んで居ります。どうか宜しく御願致します。では御礼旁々御願申し上げます。

(裏側絵はがき「垂柳の初夏 漢口中山公園 櫻庭彦治筆」)

3

(検閲) 「㊦(野上)」

(宛先) 「中支第三十野戦局 広瀬五郎様」

(差出) 「野上 J」

(本文)

暑中御見舞い難有存候。御地も本格的の炎暑になつたこと、思います。切に御自愛を祈上ます

中支第四十二局

七月四日 野上 J

4

(検閲) 「㊦(西村カ?)」

(宛先) 「中支三〇野戦局分局 広瀬五郎様」

(差出) 「中支派遣第一四七野戦局 佐藤 S」

(本文)

廣瀬様

新年のお便り有りがたう。

すっかり御無沙汰いたしました。

貴君の元気な顔を思い出して居ります。私も前線にて元気で働いて居ります。金子君からも便り有ります。先は寒さに向ふ折から御身大切に。

中文の空より

貴君の御健康を祈る

一月十五日

5

(検閲)「㊦(大林)」

(宛先)「中支派遣第三〇野戦郵便局 廣瀬五郎様」

(差出)「中支蘇州特ム機関豊田M㊦二十三日」

(本文)

わざわざお手紙を頂きまして恐れ入りました。突然お伺いいたしまして、お手数をかけて恐縮してをります。

あの時、頂いた餅菓子の中にどなたのか、お箸が入ってゐましたが、(それも相当に立派な品で)一体どうやつてお届けしたらよいものでせうか。お困りになつて、ゐらつしやるでせう。

だんぐ／＼暑くなります。

お元気を祈ります。帰る事を書くと機関長にシカラレマスから、書きません。サヨナラ

(裏側絵はがき「戦塵を洗ふ 秋聲」)

6

(検閲)「㊦(矢ノ倉)」

(宛先)「中支第三〇野戦郵便局 廣瀬五郎様」

(差出)「中支第三〇野戦郵便局第二分局長通信

書記 矢ノ倉總八

(備考) 検閲者と差出人が同じ。

(本文)

広瀬さん 証明書有難う御座いました。御蔭で助りました。早速南京の友人に頼む考へです。本局の仕事の方は如何ですか。御蔭で当局員一同張切つて居ります。時候不順の折柄十二分に御体御大切にせられん事を。中田局長様にも宜敷く。先は取急御礼迄

(裏側絵はがき「事変発祥の地 龍王廟 秋聲作」)

7

(検閲)「なし(普通郵便)」

(宛先)「中支派遣第三十野戦郵便局 広瀬五郎様」

(本文)

(差出)「東京市淀橋区淀橋——西山Y㊦」
大変御無沙汰を致して居ります。其の後お変わりなくお元気に勤務に御精励の趣き、まことによるこぼしく存じて居ります。そちら様よりは度々のお便り頂きながら御返事も差上げませず、まこと／＼失礼のみ致してゐます。

先達は御写真やらまだ見ぬ支那の地に咲く可憐な草花の押花を頂戴致し、戦雲治まり平和な支那の風景なども想像されて、お志のほど嬉しく存じました。

お留守宅の皆様もお変りない事と存じます。お坊ちゃんもさぞ大きくおなりのことと存じます。東京もこの所梅雨の時季にて、毎日降りみ降りず

みの有様でござります。間もなく梅雨が上がりれば、夏晴れの暑さがやってくることでござりませう。おはがきにて失礼ですがお許し下さいませ。暑さの砌りお身御大切に遊ばしませ。かしこ

8

(検閲)「なし(普通郵便)」

(宛先)「支那派遣軍総司令部登部隊 第三十野戦郵便局第二分局 広瀬五郎様」

(差出)「東京中央郵便局電信課 岡根S」

(本文)

拝啓その後は元気に御奮闘の事と存じます。私は野戦の事情は存じませんが、何かと不自由な事や時によると危険な事もあらうかと推察致しますが、何時も澁澁たる御便りを戴いて、貴君の手柄が忍ばれるやうな気が致します。貴君が従軍されて以来、私達の職場に大きな変化がありませんが、高橋主事と西山主事が東京都市通信局に異動になりましたから、一寸御知らせ致します。東京は今梅雨前のよい気候ですが、御地は如何ですか。遥かに貴君の御健勝ならん事を祈ります。

六月七日

不備

9

(検閲)「なし(普通郵便)」

(宛先)「中支派遣軍第三〇野戦局第二分局 広瀬五郎様」

(差出)「東京市豊島区長崎——川北M」

(本文)

暑中御見舞申し上げます。

今度は態々御手紙戴き有難度く拝見致しました。
本日は日支事変五周年の忘れることの出来ない
記念の日に当り、前線の皆様も、又銃後の我々国
民も意義新たなる感があることと存じ上げます。
廣瀬様の処ではおばあさん、ぼっちゃん、奥様皆々
様御元氣ですから、何卒御心配なく御働らきの程
祈り上げます。

10

(検閲) 「なし(普通郵便)」
(宛先) 「中支那第三〇野戦郵便局 廣瀬五郎様」
(差出) 「東京小局渋谷区代々木山谷—— 林

S

(本文)
乍思御無さた計り、益々御元氣で何よりの御事
です。皆様に御蔭にて私共も無事勤務さして頂て居
ります。本日事変五周年の記念日です。一層感を
深からせしめます。尚本軍は今の処時候は到て尋
調です。益々御自重御自愛を御祈りします。尚御
令閨様も日益御快方の由、昨日御母様御見へにな
りました。亦其内御便り差上ります。

昭和十七年七月七日

11

(検閲) 「なし(普通郵便)」
(宛先) 「中支第三十野戦郵便局 廣瀬五郎様」
(差出) 「大阪府中河内郡三郷町西橋波——
青笹K」

(本文)
廣瀬兄

其の後御変りありませんか。
貴兄には最後まで種々御世話になりました。
厚く御礼申します。

例の品物も昨日今日と全部確に受取りましたか
ら、何卒御安心ください。ほんとにすみませんで
した。

夏服の生地代も御送り致さねばなりません、来
月十日頃、田舎より帰り次第御送り致しますか
ら、よろしく御願致します。その時又外に少々御
願致し度いと思つて居ります。菓子類はほとん
どないと云つてもよい位です。
いづれ又

12

(検閲) 「なし(軍事郵便(赤手書))」
(宛先) 「中支派遣登七三三二部隊第三十野戦郵
便局 廣瀬五郎様」
(差出) 「青森県弘前市新町 工藤T 六月
二十五日」

(本文)

永らく御無沙汰して済みませんでした。
内地は今漸やく初夏の候となりました。
従軍中は色々とお世話様になり、衷心より厚く御
礼申上げます。去月三十日無事帰還、去る二十日
付けて解除と同時に復務して居ります。突然内地
の空気にふれると、牀の調子や頭具合がはつきり
せず、今だに元氣が出ず閉口してゐます。銃後の
務めもなかなかです。大陸は最早灼熱の頃と思は
れます。どうぞ御自愛の上、御奮斗の程遙かにお
祈りも申上げます。先は御礼旁々御挨拶迄。

敬具

13

(検閲) 「なし(普通郵便)」
(宛先) 「中支那第三〇野戦局 廣瀬五郎様」
(差出) 「東京市豊島区長崎—— 山田K」

(本文)

御手紙有難く、御無沙汰致まして申訳ありません。
私共一同元氣で居ります。御安心下さい。七、七
記念日を現地で迎られ、感激新たなる事と御察し
致します。帝都市民も一段と緊張致して居ります。
先は時節柄御身体を御大切に。 草々

14

(検閲) 「なし(軍事郵便(赤スタンプ))」
(宛先) 「中支派遣第三十野戦郵便局 廣瀬五郎
様」
(差出) 「世田谷区世田谷—— 世田谷郵便局
河田S①」

(本文)

謹啓 時下初夏の候愈々御清穆に被爲涉候段奉
慶賀候
陳者小生儀中支那方面従軍中は公私共に絶大なる
御厚情を忝ふし洵に難有奉深謝候
今般内地帰還を被命、六月二十日附を以て原所屬
に復帰候間、何卒今後共倍舊の御交誼と御指導の
程奉願候
先は不取敢御禮旁々御挨拶迄、如斯御座候
昭和十七年六月 敬具

世田谷郵便局

河田S^㊄

世田谷区世田谷——

15

(検閲) 「なし (普通郵便)」

(宛先) 「中支派遣第三〇野戦郵便局 広瀬五郎様」

(差出) 「神奈川県小田原市新名女学校本科に年二組 山口H^㊄ 出」

(本文)

猛暑の中を軍務下される兵隊さん、どうもありがとうございました。湘南地方の小田原も随分暑くなり毎日蟬がチーチー鳴いています。私もこれから「ちゃあちゃん」の名前から「黒ちゃん」の名前にだんだん変わって行きます。

今度一学期の本考査がありますが、(私)「黒ちゃん」も兵隊さんに負けぬやう、しっかりとぐわんばるつもりです。 さやうなら

16

(検閲) 「なし (普通郵便)」

(宛先) 「中支派遣第三十野戦郵便局 廣瀬五郎様」

(差出) 「石川小山町 廣田J」

(本文)

盛夏と存じます。御元氣の事と存じます。細目は後日通知致します。然し如何なる品も領収証は作製して置きなさい。小生無事、御安心下さい。

(裏側絵はがき 「事変発祥の地 龍王廟 秋聲作」)

17

(検閲) 「なし (普通郵便)」

(宛先) 「中支那派遣第三〇野戦郵便局第二出張所内 広瀬五郎様」

(差出) 「東京市下谷区入谷町—— 田邊S」

(本文)

拝啓、其の後しばらく御無沙汰致しましたが、貴君も其の後御書面も致た、きませんが、如何なされたか一寸伺ひます。こちらでわ皆元氣で居ります故、御安心下さい。貴君も大東亜戦争以来、お急がしき事と思ひますが、重分からだを氣をつけて勤務にご精励下さる様お願ひ致します。お手すきの時近況お知らせ願ひます。

18

(検閲) 「なし (軍事郵便 (赤手書))」

(宛先) 「中支派遣第參拾野戦郵便局 廣瀬五郎様」

(差出) 「東京市王子区稲付町—— 高橋Y方 大瀧H」

(本文)

度々のお便りありがたう。いつも失礼して申訳ありません。今日此頃の帝都は連日猛暑で、いても立っても居れません。私は徴兵検査で甲種合格でした。連日の暑さはものかは、晴て国防の第一線に馳せ参ずる日を待ちあぐんで居ります。お互ひガンバリませう。では、お元氣で

七月八日

東京市王子区稲付町——

高橋Y方 大瀧H

(裏側絵はがき 「3. 両国橋」)

19

(検閲) 「^㊄ (山本)」

(宛先) 「^㊄支第三〇野戦局第二出張所 広瀬五郎様」

(差出) 「中支第四十二野戦局 工藤T 一月二十九日出」

(本文)

其後大兄には御元氣の事と存じます。先日は御多忙の処、御手数かけまして誠に恐縮に存じます。ありがとう御座いました。本人も大変乗氣でしたが、昨日郷里より一度帰国する様申越ましたので、心ならずも中止のやむなきに至り、非常に残念がつている次第にて、誠に勝手乍ら左様御承知願ひ上げます。大兄にも御骨折りの程、御礼申上ます。又、当地に御用の節は、私を御利用下さいませ。河田様にも宜しく。先は御礼まで。 不

20

(検閲) 「なし (普通郵便)」

(宛先) 「中支那第三〇野戦局 廣瀬五郎様」

(差出) 「深川高橋—— 廣瀬Z」

(本文)

拝啓其の後久々御無音ニ打過ぎ失礼仕候。又先日ハ早々暑中御見舞被下有難御礼申上マス。東京の皆々元氣ニテ働イテ居リマスカラ御安心被下度

候。職務忠実尽シ被下ン事ヲ節ニ御願申上候。御前様モ御身体ニ気付一層大切に養生專一ニ致シ、暑サモキビシキ折柄、皆々様ノ御健康ヲ遠キ東ノ空ヨリ御祈申マス

（備考）下段正面に「旧乃木邸参拝記念」スタンプ
（裏側写真絵はがき 「乃木保典 乃木勝典」）

21

（検閲）「なし 軍事郵便（赤スタンプ）」
（宛先）「中支第三〇野戦郵便局 広瀬五郎様」
（差出）「福井県足羽郡東郷村小路 野坂T[Ⓜ]」
（本文）

御無伏多致しました。お元氣との御事お喜び致します。此方も春が来て毎日ぼかぼか好天氣が続きます。桜花が爛漫と咲き乱れて戦捷の春を誇いで居ります。今年はこの天氣が続けばと皆張り切つて増産を確信して居ります。毎日春を他に軍務多忙との御事、本当に御苦勞様です。此方一同丈夫で病知らずで居りますから、御安心下さい。御身御大切に。

22

（検閲）「なし 軍事郵便（赤スタンプ）」
（宛先）「中支第三〇野戦局第弐分局 広瀬五郎様」
（差出）「大日本兵庫県宍粟郡千種国民学校 初六 八田S」
（本文）

兵隊さんお便ありがたう。

今日は記念すべきシンガポールが落ちたひです。兵隊さんは東京乃人ださうですね。僕等はコ、デス。千種川はアカウヘながれて居ますよ。サヤウナラ

（備考）手書きの兵庫県の地図に千種川と「◎神戸」「●姫路」などと書かれて住所の位置を示している。

23

（検閲）「^印（大元）」
（宛先）「中支第三十野戦局 広瀬五郎君」
（差出）「中支第三九継立所 大元K」
（本文）

暑中御見舞
益々お元氣にて精励の由何よりです。小生もお蔭で壮健です。その後変つた事ありませんか。吾々の期間も半ば過ぎましたが、お互に残余は、うんと頑張りませう。ご自愛下さい。
不

24

（裏側絵はがき「クリーク（九江） 片岡銀蔵筆」）
（検閲）「^印（川崎）」
（宛先）「中支第卅野戦局 広瀬五郎様」
（差出）「中支百二局 木K」
（本文）

早々暑中御見舞状を頂き恐縮致しました。おかげで当方益々元氣です。
〇〇が案外早いらしい噂があるらしいですね。もうそうなるのかと感慨無量です。たしかな話があ

りましたら御一報下さい。――
（裏側絵はがき「中村研一氏筆」）

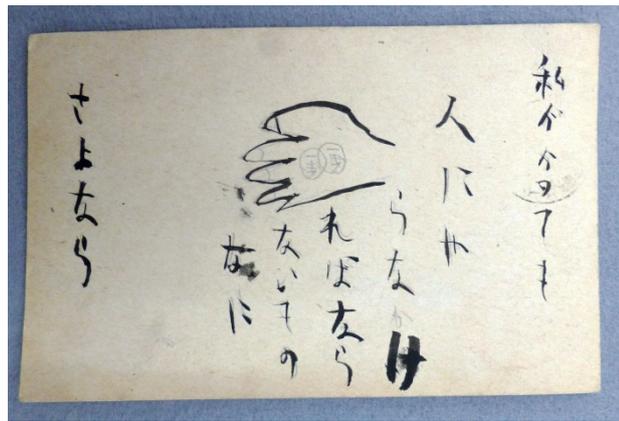
25

（検閲）「なし 軍事郵便（赤スタンプ）」
（宛先）「中支那第三〇野戦局第二分局 広瀬五郎様」
（差出）「兵庫県宍粟郡千種村七野 木下S」
（本文）

元氣でしたか。□の僕も元氣でしたか、へんじださずこ方へて下さい。僕の村の冬けしきをしらせしやう。はりまつたから右ずりに、僕のりげにあ太らしいくるまがじきました、新くるまがじきました。
ではまた。さよなら

26

（旗竿と日の丸のイラスト。旗に「進め一億火の玉だ」とあり）
（検閲）「なし 軍事郵便（赤スタンプ）」
（宛先）「中支第三十野戦郵便局第二分局 広瀬五郎様」
（差出）「兵庫県宍粟郡千種村七野 木下S」
（本文）
私がかつても、人にやらなければならぬものな
に
（掌に一錢貨幣2枚のせたイラスト）
さよなら



27

(検閲) 「印」(不明)「河」

(宛先) 「中支第三〇野戦局 広瀬五郎様」

(差出) 「中支第四十四野戦局 加藤S生」

(本文)

拝啓

御手紙有が度う。

五郎君にはその後御変り有ませんか。小生も相変ず元気で毎日やつて居ります。そちの方は暑さはいかゞですか。南京はとても暑いです。君の所は蘇州の水と言から、すゞし事と思ひますが、どうです。

扱市川君も元気で居ります。御安心下さい。では又。

(裏側絵はがき「石仏 和田香苗氏筆」)

28

(検閲) 「印」(帯瀬)

(宛先) 「中支第三十野戦局 広瀬五郎様」

(差出) 「第四十二野戦局 工藤T」

(本文)

大変御無沙汰に打過ぎまして、お許し下さい。其の後大兄にはお変りなく、お元気で奮闘の事と思つて居ます。

相変らず私も頑健でやつとります。すっかり暖かくなりました。御地の春酣も又格別な事せう。私共は去ル三日中心区の敷島公園でお花見をやりましたよ。恰度桜が満開で、内地気分満点で楽しい一と時を過しました。

思へば早いものです。去ル十二日は我々の東京を出発した日で、當時を偲んで一杯やりましたよ。来る十八日は上陸記念日ですよ。振り返つてみれば感無量ですね。これで又一杯飲める訳ですか。先輩も来月は早々だと張り切つて居ります。新参も二十七日頃来る事せう。

我々もこの一年は元気で朗らかに過す訳です。ね。実際この調子だと後の一年も案外早い様です。

何卒貴兄にも一層御自愛して任ム完遂致します様心から御祈り仕て居ります。お互ひに健康第一に。では又。

四月十六日

(裏側絵はがき「廬山 御厨純一氏筆」)

29

(検閲) 「なし 軍事郵便(赤スタンプ)」

(宛先) 「中支那第三〇野戦局第弐分局 広瀬五郎様」

(差出) 「兵庫県宍粟郡千種国民学校 土屋H」

(本文)

拝啓御免下さい。

兵隊さん元気ですか。

僕も元気ですよ。

いよく日本もシンガポールもかんらくしましたね。僕たちもこうして毎日学校に通学するのも、兵隊さんが支那兵おやつてくださるで、毎日あそんでおられますよ。又お便りだしますよ。千種はまだ寒むいですよ。

でわ さようなら。

30

(検閲) 「なし 軍事郵便(赤スタンプ)」

(宛先) 「中支第三十野戦郵便局第二分局 広瀬五郎様」

(差出) 「兵庫県宍粟郡千種村岩野辺 初六 八田S」

(本文)

御免下さい

僕は木下君乃くみ乃者です。木下君も元気です。アナタも元気ですか。兵隊さんはどこ乃人ですか。僕にもお便下さいね

(手書き地図のイラスト)

31

(検閲) 「なし 軍事郵便」

(宛先) 「中支第三〇野戦郵便局 広瀬五郎様」

(差出) 「第百二野戦郵便局 櫻井M」

(本文)

暑さも日増に激しくなつて来ますが、皆々様別段お変わりもなく御活躍の事と存じます。私事此の度の転勤に際しましては、身に余る御高配を戴き、且つ又今般御丁寧な記念品迄頂戴、有難く厚く御禮申上ます。貴局奉職中の思出として永久に保存するつもりでおります。お蔭様で私も、十日着任以来、非常に元気で職務に従事しておりますれば、乍他事御放念被下度、向後暑気と共に悪疫の流行する事と思われませんが、皆様一層の御自愛の上、邦家の為、御精励あらん事を祈ります。右簡単ですが御礼申上ます。

(裏側絵はがき 「彌生 南出麗子画」)

32

(検閲) 「なし (普通郵便)」

(宛先) 「戦地の将兵様」

(差出) 「神奈川県立小田原高等女学校補習科

飯山Y(Ⓜ)」

(本文)

十二月八日！よりはや六ヶ月、次々に報ぜられる輝かしい戦果は唯、日夜御奮ごまなされてゐる皆様に感謝致すのみでございます。

そして六回目の奉戴日を迎へた今日、新たなものがあります。

最早内地は青葉の候。匂ふやうなみどりを、古城のお堀りにうつつしております。唯兵隊様に感謝しつつ、戦時下の女学生らしく日々をすごしております。では御暑さの折柄、御身御大切に。佐様奈良

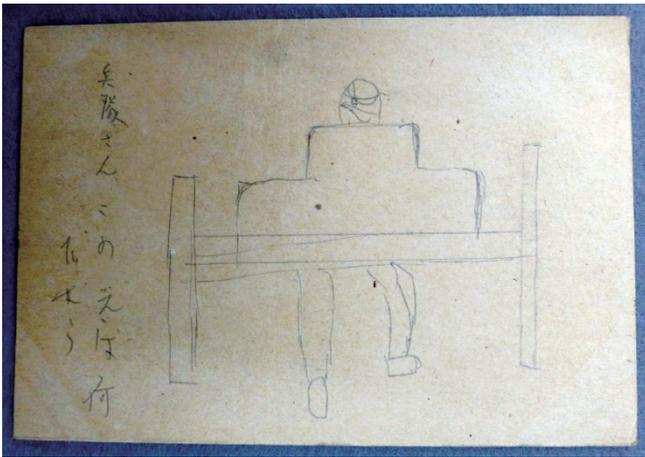
(裏側絵はがき 戦闘機)

33

(検閲) 「なし 軍事郵便 (赤スタンプ)」

(宛先) 「中支那第三〇野戦郵便局第貳分局 広瀬五郎様」

瀬五郎様」



(差出) 「兵庫県宍粟郡千種村千種 矢部T」

(本文)

(イラストあり)

兵隊さん、このえは何でせう

34

(検閲) 「なし 軍事郵便 (赤スタンプ)」

(宛先) 「中支第三〇野戦郵便局第貳分局 広瀬五郎様」

(差出) 「兵庫県宍粟郡千種国民学校六年 八田M」

(本文)

〔第二十六代横綱玉錦〕の化粧まわし姿イラスト、

〔双葉山〕の顔イラスト



35

(検閲) 「(印) (矢ノ倉)」

(宛先) 「中支第三十野戦郵便局 広瀬五郎様」
(差出) 「中支第三〇野戦郵便局第二分局長 郵便書記 矢ノ倉總八」
(本文)

先日は暑中見舞状有難く拝見致しました。実は机の中に入れた俵、本日迄追々忘れて居て、何んと申し訳もありません。悪しからず。その後相変らず御元氣の事と存じ申上ます。御蔭で小生も張切つて居りますが、最近の暑さには青色吐息と云い度いところですね。局長様にも宜敷く。

酷暑の折柄御身御大切に。
(裏側絵はがき「難民給與 古島松之助氏筆」)

36

(検閲) 「㊦(才内)」
(宛先) 「第三〇野戦局 広瀬五郎様」
(差出) 「第四十二局 堀T」
(本文)

しばらく御ぶさたを致しました。そのごは御元氣にて御奉公の事と存じます。こちらも相変らずで居ります。もうまごふくすると、一年目になりますね。蘇州はどうですか。ステキな美人が居るそうですか?。渡辺さんよろしく御伝へ下さい。こちらもそろそろ櫻のつぼみもふくらんで来ました。では御元氣で

三月廿六日
(裏側絵はがき「水都杭州 櫻庭彦治筆」)

(検閲) 「なし 軍事郵便(赤スタンプ)」
(宛先) 「中支第三〇野戦局第二分局 広瀬五郎様」
(差出) 「兵庫県宍粟郡千種村千種 三島S」
(本文)

お元氣ですか。僕たちは皆元氣です。

次のお答下さい。
□バ□ニ用心
□ズ□康

38

(検閲) 「なし 軍事郵便(赤スタンプ)」
(宛先) 「中支第三〇野戦局第二分局 広瀬五郎様」
(差出) 「兵庫県宍粟郡千種村七野 木下S」
(本文)

(上に横文字で左から「〇―1―」答) これをかんがへて下さい
さよなら

(裏側絵はがき「罰金箱(マンガ)」)

39

(検閲) 「㊦(矢ノ倉)」
(宛先) 「中支第三十野局第二分局 広瀬五郎様」
(差出) 「中支第三十三局 深沢T」
(本文)

転勤に際し多大の御心配にあづかり、有難く御礼

申上ます。二十九日に無事に着しました。中々良い町です。小しおちついたらくわしい様子を御報知致します。
先は御礼迄。草々
(裏側絵はがき「爆撃の跡」)

40

(検閲) 「㊦(矢ノ倉)」
(宛先) 「中支第三〇野戦郵便局 広瀬五郎様」
(差出) 「中支第三〇野戦郵便局第二分局長 通信書記 矢ノ倉總八」
(本文)

一昨日は突然参上しまして御迷惑かけまして、誠に済みませんでした。

悪しからず。関係部隊にも挨拶廻りも終りましてやつと落付いたわけですが、何しろ勝手が違ひますので、当分は楽は出来ませんね。此の前御話しの水筒と帽子、是非御願ひ致します。御一報下されば早速送金致します。甚だ勝手な御願ひです。では、何れ又後便にて。

41

(検閲) 「あり(㊦なし)」
(宛先) 「三〇第二出張所 広瀬五郎様」
(差出) 「三〇局 塚田T」
(本文)

暑中御見舞申上候
平素は意外の御無沙汰を致し、失礼の段平に御許容下度候。
昨今の暑気は殊の外凌ぎ難く候処、御一統様には

何の御障りも之無候や御伺ひ申上候。次に小生も至つて元氣に勤務に精勵罷在候間、他事ながら御放心下度候。時節柄皆々様御自愛專一に御祈り申上候。

42

(検閲)「なし 軍事郵便(赤スタンプ)」

(宛先)「中支第三十野戦郵便局第二分局 広瀬五郎様」

(差出)「大阪府三身郡清溪村大字泉原 西浦丁」
(本文)

中支に於て御奮闘下さる広瀬様。永らく御無沙汰致して居ました。広瀬様中支の勇士様かた々お元氣ですか。僕も元氣で毎日学校に通学して居ます。ゆへ御安心下さいませ。二月十五日午後十時頃でした(シンガポール島)が陥落したとラヂオがほうそうされました。僕は朝早く起て神社におまいりました。広瀬様も元氣で働いて下さい。僕も元氣溼漑たる心で毎日学校へ通学致し、一生懸命で勉強シテ居ます。

右乱筆、貴君の武運長久を祈ます

二月十七日

43

(検閲・宛先・差出無し。軍事郵便はがき表裏)
(本文)

御便り有難う。貴兄も其後無事に勤務致し居る由喜んで居る。小生も大兄転勤後一人で郵便して居る。とても大多忙だ。それに新兵さんが来々で物は増加する、人手は小生のみで多忙は限りない。

小生宛手紙四日の何号便に出したが、此の次より必ず下り一号便に出して下さい。小生も原君も蘇州へいきませ。

又小生も其の後の状況、手紙に書いてもよいが、文句に書けないことが有るから、来て直接君に話すよ。

面白いことも有る。それ迄で待つて下さい。今局長が風邪で静養して居る。四、五日前よりだ。

それが全快すれば一度行き、心の行く迄で話すよ。末筆ですが渋谷局長殿によるしく御伝へ下さい。

44

(検閲)(印)(間林)

(宛先)「中支那派遣第三〇野戦局内 広瀬五郎様」

(差出)「中支蘇州特務機関 豊田M(印)」
(本文)

御ていねいに、御見舞下さいまして、ありがたう存じます。おかげ様で、私も益々元氣です。

この間、崑山からの帰途、夕方六時半頃、局の近くを自動車で通つたら、大きな郵便の包みを大勢で持つて来られるのを見ました。たしか、先頭に広瀬さんがお出でになったやうです。

昨日、光福鎮へ行つて参りましたが、内地とそっくりですね、あの辺は。行く途中の、一里余りのポプラの並木道が素晴らしいと思ひました。お暑くなりしましたから、お大事に。

45

(検閲)「なし。陸軍便箋による手紙」

(宛先)「館長殿 (印)(津田)」
(差出)「中支派遣第三〇野戦郵便局 広瀬五郎 (印)」
(本文)

館長殿 (印)(津田)

拜啓 朝夕は大変凄まじくなりました。館長殿初め皆様には益々御壯健にて御過しの御事と江南戦線より遙かに御伺ひ申上げます。命に依り〇〇年〇月通信の最前衛として上陸以来、益々元氣旺盛にて野戦業務の完遂に挺身致しております。我が軍事郵便の使命は今更云々するのは、野暮かも知れない。然しまだ、此の件に就いて関心の少い、否、未知の人が有るやに見受けらるるのは全く残念至極である。：故国よりの便り：そは戦線の全將兵の日夜渴望しおるものにして、心の糧である。又、明日の戦鬪の原動力として、戦鬪の士氣に如何に重大なる影響を及ぼすかは今更言ふ可くもない。自分は野戦局員として直接、自身、戦場に在つて体験した。自分は思ふ。手紙は弾丸同様、戦争には絶対必要である事を……。上陸当初、故国の母より最初に便りを受けた時のうれしさよ。熱いものがとめどもなく流れ出るのを如何ともする事が出来なかつた。我々一生を通じ、此の様に感激した事はないであらう。

我々でさへ、かく感激し、日夜渴望しておるのである。

戦線の全將兵は、故国の国民の心からなる便りを、どんなにか、希求しておる事でしょう。

我々は一枚のハガキでも手紙でもよい。戦線の將兵に心の糧を送れと切望するものである。

我々は一片の封皮に迄、故国の温い思ひに迄と
(別本)の如く愛着を感じ収集。心の糧としてゐ
る。猛暑と黄塵、或いは砲煙と敵匪の戦場に大通
信旗の下、尊く且つ重要な使命の完遂に挺身し
ております。別紙同封の新聞紙及び本は軍事郵便
資料の一端にもと御送附申上げました。何分宜し
く御取計らひ下され度。
右は乱筆乱文にて誠に失礼乍ら当用迄。

待ちわびし故国の便りの嬉しさは

又よみ返し又よみかへす：

〇〇にて 五郎作

中支派遣第三〇野戦郵便局

廣瀬五郎(印)

選出、東京中央郵便局電信課員

46

(検閲) 「なし 軍事郵便(赤スタンプ)」

(宛先) 「中支第三〇野戦局第式分局 広瀬五郎様」

(差出) 「兵庫県宍粟郡千種村岩野辺 初六 八

田S」

(内容)

(手書きの戦地図)

「僕乃所はコ、デス」

47

(検閲) 「なし 軍事郵便(赤スタンプ)」

(宛先) 「中支第三〇野戦局第式分局 広瀬五郎様」

(差出) 「兵庫県宍粟郡千種村西山—— 橋下 A」

(内容)

五郎様

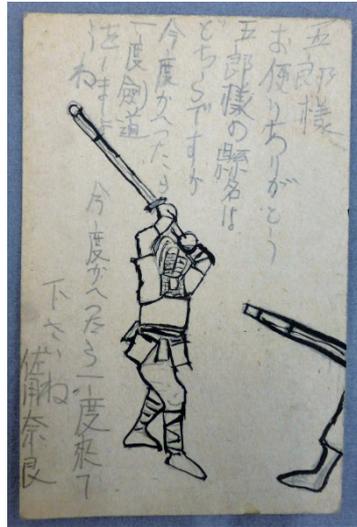
お便りありがとうございます。

五郎様の県名はどちらですか。

今度かへつたら一度剣道をしましょうね。

今度かへつたら一度来て下さいね。佐用奈良

(剣道の直筆イラストあり)



48

(検閲) 「印(大勝)」

(宛先) 「中支那派遣第三〇野戦郵便局 広瀬三郎様」

(差出) 「中支那派遣第三八五一部隊藤島隊 川鍋K」

(内容) 謹啓 愈々御清栄奉慶賀候。

陳者小生今般大命を拝し、大東亜戦争の第一線に

挺身敢闘致すこと、相成、誠に皇国軍人として恐懼感激の至に御座候。

以御蔭海陸無事任地に到着、愈々責務の重、且つ大なるを覚え、日々軍旗の下に精励致居候間、何卒御休心被下度候。

皇国の隆替、東亜の興廃撃つて此の一戦に在り、必勝の信念を堅持し、身命を賭し、殉忠報国に邁進せんことを誓ひ申候。

何卒今後共銃後の御支援助御鞭撻を御願申上候。

先は不取敢御挨拶申上度、如斯御座候。敬具。

昭和 年 月 日

中支派遣第三八五一部隊藤島隊 川鍋K

49

(検閲) 「印(松本)」

(宛先) 「第三〇野戦局 広瀬五郎様」

(差出) 「第一〇三野戦局 堀T」

(本文)

拝啓、御便りを有難うございました。

永い間御無沙汰を致しました。御元気の御様子にて、何よりと御喜び申し上げます。

私も五月の〇〇にて、四十二局より、一〇三局へ来ました。来る時は沼津の内田氏と同じ車で来ました。四十四局では、加藤君にも会ひましたよ。

元気でやつてゐます。こちらは上海よりも暑くなるのが早く、仲々のあつさです。山あり川あり湖ありで、仲々よか所です。夜は二十四時頃迄みんなねられませんよ。湖で舟にのせる所もあります。我々の寿命もあと十月位だらうと思はれますね。

御互に、今少しですから、大いにガン張りませう。

また会ふ日まで、元気で行かうよ?にしませう。
では、御身御大切に、益々御健康を祈る。七月五日。不一。

50

(検閲) 「㊦(小池)」
(宛先) 「中支第三〇野戦郵便局 広瀬五郎君」
(差出) 「支那派遣軍総司令部第参号郵便総括部 小池C」
(本文)

御便りありがたく拝見致しました。
いよく本格的の夏が訪れ、毎日カンク灼きつく様な陽の光に御苦勞様です。
ゆつくりお目にかゝりたいと思ふが、仲々機会が無いもんですね。小生おかげ様でいつも元気です。御自愛の程、御祈します。

七月六日

支那派遣軍総司令部第参号
郵便総括部 小池C

51

(検閲) 「なし 軍事郵便(赤スタンプ)」
(宛先) 「中支那第三〇野戦局二分局 広瀬五郎様」
(差出) 「兵庫県宍粟郡千種村七野 木下S」
(本文)
(手書きの戦況地図)
「初シンガポール陥落」
「見たか、きいたか、しつたか、昭南島」
「見たかB A、きいたかドソレン」



52

(検閲) 「なし 軍事郵便(赤スタンプ)」
(宛先) 「中支那派遣第三〇野戦局 広瀬五郎様」
(差出) 「福井県足羽郡東郷村小路 野坂T㊦」
(本文)
御無沙汰致しました。御地は相当御厚い事と存じ上げます。昨日写真拝見致しました。元氣な御姿皆奮ひ合ひでじみ々眺めました。当地は毎日細雨続きで割合に涼しい日が続いて居ります。皆丈夫で居ます故、御安心下さい。御無事御働の程祈り上げます。時節柄、御身御愛ひ下さいませ。

(裏側絵はがき「駆逐艦夕暮れ進水記念」)

53

(検閲) 「㊦(角田)」
(宛先) 「中支派遣第三〇野戦局 広瀬五郎様」
(差出) 「中支那派遣第一六三三部隊 第一号 青山M㊦」
(本文)

拝啓 昨日は：ほんとうに何んとも言ひません。折角お出下さいましたのに、何んのお愛想どころか、あんな取り散らかしたところ、きたないところをお目にかけて恥しくて穴があつたら入りたへ位でございました。今かうして考へましても：いくら言つても任方ないことですが、すみませんで御座居ました。申し遅れてすみません。お出になる度あんなにお産生戴きましては、ほんとうに恐縮でございます。今後はどうぞあのやうな御心配はして下さいませやうに：。あのお海苔は懐しの思ひで一杯でございます。すみません。有とう御座居ました。お友達からもよろしくとのことございました。かしこ

54

(検閲) 「なし(普通郵便)」
(宛先) 「豊島区長崎町二丁目十四番地 広瀬五郎様留守宅御中」
(差出) 「荒川区尾久町—— 寺田H」
(本文)
拝復 御忙しい留守宅より御書面に接し、誠に恐縮に存じます。皆々様御変りなく御過ごしの由、

喜ばしく存じます。当方にては皆元気で暮して居ります故、他事乍ら御休心下さい。二三日前原地の御主人様より御手紙を戴きました。大へん元気で御勤務の由、私始め局員一同喜んで居ります。御子様や御母上様にも充分御身御大切の程を、先は取急ぎ御返事まで申上舛。匆々

55

(検閲)「印(角田)」

(宛先)「中支那第三〇野戦局 廣瀬五郎様」

(差出)「中支派遣登第一六三三部隊 第一号

青山M①」

(本文)

拝啓 お手紙有がとう御座居ました。

過日はお出下さいまして、それにお産生まで戴いたり真実に恐縮でございます。はじめてお便りいただきました時も、お返事差上げも致しませんでした。すみません。

嬉しうございました。誰も近くの方はおりませんし、あの頃お出になつて下さいますとは思つて居りませんでしたものね。

御蔭様で毎日元気に勤務致して居ります。もう半年にもなりますが、病気をしたことなどございませぬ。ほんとうに嬉しく思つてをります。これからも元気に張切つて働く心算です。あたもどうぞ御達者で勤務に精励出きますやう、御祈致してをります。

56

(検閲)「印(小澤)」

(宛先)「中支第三〇野戦局 廣瀬五郎様」
(差出)「中支第四十四野戦局 加藤S」
(本文)

拝啓

先日は御手箋有が度ふ。元気にてなによりです。小生も相変す元気でやつて居ります。御安心下さい。先日お話の新聞ははんずの者がとこかいやつてしまつて見はたらないからメンハーズだ。広瀬君俺もどっかい来なくなつたよ。南京はもうあきたよ。工藤の所にもい来たよ。広瀬君都市の者は皆元気で居る、市川君も毎日元気で居る。では又書く。

(裏側絵はがき「洪水 御厨純一氏筆」)

57

(検閲)「印(矢ノ倉)」

(宛先)「第三十野戦局 廣瀬五郎様」

(差出)「中支第三十野戦局第二分局 細見K」
(本文)

早々に暑中見舞に預り厚く御礼申上ます。

自分も御蔭様で元気で最初の支那の夏を迎へました。今度は服の件を御願ひ致し、御迷惑でせうが宜敷く御願ひします。

では益々暑さ酷しくなります折柄、御身大切に御勤務下さい。

先は乱筆乍ら。草々

(裏側絵はがき「蘇州獅子林 小林萬吾筆」)

58

(検閲)なし

(宛先)「中支第三十野戦局 廣瀬五郎様」
(差出)「廣田」
(本文)

其後御変りも有りませんか。

出発よりまだ宿舎に居ります。上海は国際都市だけに、とても見物する所が有ります。

北田線路及呉淞駅は内地人町です。真庭さんに御馳走に成り一日見物しました。尚氏は三十局へ臨時勤務の話でしたが、着任したと思ふ。

何分よろしく御伝へ下さい。原君にもよろしく。

59

(検閲)「印(不明)」

(宛先)「中支第三〇野戦郵便局 廣瀬五郎様」

(差出)「中支那派遣登第七三三部隊塩見隊長谷川T」
(本文)

拝啓 過日は参上致し、種々御世話様に相成り、御蔭様にて無事帰庁仕候間、乍他事御休神被下度候、一度上海の方にも是非一度御出掛を御待致して居り候。

四月九日

60

(検閲)「なし 軍事郵便」

(宛先)「中支那派遣第三〇野戦郵便局 廣瀬五郎様」

(差出)「東京中央郵便局 山田K」

(本文)
拝復

暑氣烈敷有之候折り柄、益々御壮榮軍務御精励の段、慶悦至極と存じ一層御自愛被遊、御国の為め御奮闘御願ひ申上候。銃後の事ハ御安心願上候。一同協力通信報国候。邊達致居り升。御健勝御祈り申上候。敬具
七月六日

(裏側絵はがき「冬の夜 山形県西田川郡大泉村国民学校六年生 吉住 保」)

61

(検閲)「なし 軍事郵便」

(宛先)「皇軍勇士様江」

(差出)「東京市世田谷区深沢十七群中深沢二丁目—— 山内N」

(本文)
拝啓

戦地で活躍の勇士様、お元気ですか。私共も毎日の職務に励んで居りますから御安心下さい。日々く放送されるラヂオのニースを聞く度に、日本に生まれた事をつくく幸福に思ひます。兵隊さん、くれぐれも御身体を大切に、はるかに、勇士様の御武運をお祈り致します。敬具
(裏側絵はがき「国旗の出てる町 甲府市富士川国民学校三年生 落合正甫」)

62

(検閲)「㊦ (角田)」

(宛先)「中支派遣第三〇野戦局 広瀬五郎様」

(差出)「中支派遣 第一六三三部隊第一号青山 M㊦」

(本文)

週刊朝日、独逸人氣質、昨夜戴きました。ほんとうに重ねくすみません。こんなにして戴いてはほんとうに悪るいんですの、時折頂きますお便りだけで結構で御座居ます。あなだつてお忙しい体なのでせう。どうぞ御心配下さいませんやうに。

私ももう好くなりました。明日から又元気に勤務されるやうになりました。他事乍ら御安心下さいませ。あの病床に居りますお友達も、近い中に退院が出来ます。有とう御座居ました。かしこ

63

(検閲)「㊦ (角田)」

(宛先)「中支那第三〇野戦局 廣瀬五郎様」

(差出)「中支派遣第一六三三部隊第一号青山 M㊦」

(本文)

何回も申し上げるやうですが、ほんとうにわくわく、此の度もすぐ御礼申し上げやうと思ひなら…とうく先に戴きましてすみません。今日夜の点呼の時に渡されました。今夜こそどうしても御礼を申し上げなければと、今かうして書いてをります。時に十一時十分過ぎでございませう。

病床の友もまだ寝つかれず、もづくしてをります。でもあの通元氣ですから安心です。何んですかまとまりのないことばかり、私はお友

達が二人も病めてをりますので、当分外出は致しません。又暇がありましたらお出掛下さいませ。お友達もよろしくとの事でございます。失礼致します。かしこ

64

(検閲)「㊦ (矢ノ倉)」

(宛先)「中支第三十野局 広瀬五郎殿」

(差出)「第三十三野戦郵便局 深沢T」

(本文)

広瀬君、其の後益々御元氣の事と存じます。小生も幸に無事勤務致しております。二月は毎日く雨で困りました。三月今だ降り続くので皆んな腐って居ます。キクン、転勤の様子はどうか?。せしニースを御願ひします。蘇州の気分はどうですか。今は変なのが小さくなり良いでしょう。小生も早く海南線へ出たいです。不便で困ります。時節柄御体を大切に。

65

(検閲)「㊦ (磯崎)」

(宛先)「中支第三十野戦局 広瀬五郎様」

(差出)「第四十二野戦局 工藤T」

(本文)

広瀬さん、御便りありがとうございます。すっかり御無沙汰申上げで、相変らず呑氣者で相済みません。大兄には益々お元氣の由、何よりと御悦び申上げます。御蔭様で私も其の後変った事もなく、愈々

頑健に過しをります。

当地も久しく降り続いた雨も、二、三日前より止み、本格的な暑さになつて参りました。でも本年は七月に入るまでは雨量も多く、去ル二十九日などは、黄浦江の□も水に依り、当局の階下は水びたしと云ふさわぎでした。昨日辺りまでは、大変涼しくて楽でした。我々もこの第二回目の夏を無事に過せば、〇〇も目の前です。実に約十ヶ月です。大いに健康に留意して、最後の奮闘を致しませう。当局より近局の都市組が張りきつてゐますよ。我々も負けずにやるつもりです。大兄にも重々ご自愛下さい。又面白いニュースがありましたら、お知らせ致します。御健康を祈ります。では又。

(裏側絵はがき 「紫金山 片岡銀蔵筆」)

66

(検閲)

(宛先) 「第三十野戦局 廣瀬五郎様」

(差出) 「三十ノ二分 原島G」

(本文)

御便り並に御靴下ありが度う御座いました。

御忙しい所、何時も御無理の御願ばかり申して済みません。厚く御礼申上ます。

證明書の方も御願出来るとの事、安心致して居ります。此の證明書が出来ましたら早速行度く思つて居ります。尚白サギヨウ服下古いので済ませませんが、今年の夏丈けですから御心棒して下さい。綿布の方は今一寸都合が悪いので、少々お待ち下さる様御願致します。後便にて、取あへず御礼ま

で。

不一

67

(検閲) 「㊦(是枝)」

(宛先) 「中支第三十野戦局 廣瀬五郎様」

(差出) 「中支登七三三一部隊第三三野戦局 深澤T」

(本文)

暑中御見舞申上ます。

先日は早々と御見舞状有難う。

貴君も益々御元気に勤務の由大慶に存じます。幸に小生も無事に服務致して居ます。当地は不便で困ります故、早く沿線方面へ出度いと思ひます。御地と当地では例へれば月にスッポン?、半年居れば沢山です。近い内に再会出来ると思ひます。暑気強い折、御体を大切に。

68

(検閲) 「なし 軍事郵便(手書)」

(宛先) 「中支第三十野戦局 廣瀬五郎様」

(差出) 「東京中央郵便局 越田K」

(本文)

盛夏の候益御壮健御快動の由奉賀候。扱て過日電信課長より里貴兄帰還の様承知し、御返事をいたさす候へ共、間違と存候。御通信の件は御宅へ送付申送候、又二十五日着の報道班員の豊田氏には御面会いたすべく心中候。現地にて御活動御苦労、何卒東亜共栄圏確立のため、大ニ努力なされ度、期待いたし居候。小生も元気に、ラヂオ体操もいたし居、朝は四時三十分頃より食料増産に従事、

自給自足を目標に努め居申候。七月廿五日

(裏側写真絵はがき 「中島ダクラスDC12型旅客機」)

69

(検閲) 「なし 軍事郵便(スタンプ)」

(宛先) 「中支那第三〇野戦局 廣瀬五郎様」

(差出) 「東京中央郵便局 保険課 今野K」

七月六日

(本文)

拝復 蘇州ごろう氏としての元氣あり、然も聖戦風景横溢せる御便りを頂き、難有且暑中見舞を賜はり、誠に恐縮千萬に御座候。

尚保険課も年度初頭以来、貯蓄部門の重大役割をなす。保険、年金の勸奨募集に大童に御座候。時節柄健康にご留意願上候。

(欄外) 軍事郵便は満洲・支那・佛印・比島・南方の各方面へ差出ことが出来ます。名宛ては詳しく、はつきりとお書き下さい。

(裏側) 一ネンカトウヨシコ 小学一年生の子どもが描いた絵の印刷 立ッテセンセイニオコタヘ スルトコロ 名古屋市東区古新国民学校一年生 加藤佳子)

70

(検閲) 「㊦(坂本)」

(宛先) 「第三十野戦局 廣瀬五郎様」

(差出) 「予第七九七五部隊喜多隊古山T」

(本文)

御芳書有がたく拝見至しました。其の後御貴殿に

は益々御壯健にて御勤務の由、御悦び申上げます。時節柄並本局故、嘸御多忙の御事と存じます。尚折角御自愛なさる、様御祈いたします。小生も此儀相変らず元気で居りますから、乍他事御安心下さい。去る十七日より中満へ参りました。相変らず御指導を御願いたします。服地は未着ですから、着次第御通知いたします。先は右御返事まで。

敬具

二月廿七日

71

(検閲) なし

(宛先) 「第三十野戦局 廣瀬五郎様」

(差出) 「三十局二分局 廣田」

(本文)

御便り感謝致します。

明日はどうしても行けません。

何れ又電話でも致します。

本日よりモーデ君常洲駅勤務です。サッパリとして野戦局へ来て行きました。

原君も無事。安心下さい。

(小生靴修繕に本局へ寄越したから、宜敷御願申します)

72

(検閲) 「なし 軍事郵便 (赤スタンプ)」

(宛先) 「中支第三十野戦郵便局 広瀬五郎様」

(差出) 「大阪中央郵便局貯金課 青笹K」

(本文)

謹啓 時下初夏之候尊台愈々御清穆之段奉賀候。

陳者、私儀中支方面従軍中は公私共格別の御懇情を辱ふし、難有厚く御礼申上候。

今回軍属解除と共に大阪中央郵便局在勤を被命候に就ては、今後は銃後の一員として専心職域奉公に邁進の覚悟に御座候間、倍旧の御指導と御鞭撻を賜度奉懇願候。

先は右不取敢御礼傍々御挨拶申上度、如斯御座候

敬具

昭和一七年六月二十二日

大阪中央郵便局貯金課

青笹K

大阪府北河内郡三郷町西橋波五八一

(手書の追記) 毎度お手数ばかりかけてすみません。よろしく御願致します。

73

(検閲) 「なし 軍事郵便」

(宛先) 「第三十野戦局 広瀬五郎殿」

(差出) 「広田」

(本文)

前畧

月曜日午前十時二十分火車にてモーデ来蘇する。

宜敷取計ひ度。駅に着く。

(裏側絵はがき「戦塵を洗ふ 秋聲」)

74

(検閲) 「なし (普通郵便)」

(宛先) 「中支第三〇野戦局 広瀬五郎様」

(差出) 「千住大川町—— 横塚U」

(本文)

拜啓。御早々と暑中御見舞状下被れ、誠に有難く御礼申上候。其後は久しく御無音に打すぎ申訳御座無く候。其後貴殿には御変りも無く元氣にて御働き遊され候御事と御喜び申上候。御地は定めし御暑き御事と御推察申上候。当地も日増に暑さ相加はり候も御蔭を以て毎日通勤致居候。当地へ御帰りの節沢山土産話を御持帰被下度御待申上候。御地へ参りはじめ嘸々御難儀の事と御察し申上候。然し今はなれてをもしろく相成候事と存候。住めばみやことやら申し、帰るのがいやに相成候事と存候。当速達係わ御蔭を以て皆元氣にて通勤致居候。願くば御身大切に祈上候。頓首

75

(検閲) 「㊦ (木村)」

(宛先) 「第三十野戦郵便局 広瀬五郎様」

(差出) 「第四二野戦局通常課 金子S」

(本文)

暑中御見舞状どうも有がとう。

安慶まで行って戻ってきたらしい。

五月五日付で四二へ転動した通知を差上げた筈なれど、御承知ではありませんでしたか。

前任局と違ひ多人数ですし、騒音と塵埃も物すごく、前任局の静かさとあた、かさを今更に偲んで居ります。

今度の〇〇では君も何処かへ行くのではないかね。四二へ赴任の途中お会ひしたかったが、急がしい旅で遂々お目に掛かれなかったが、今度こそ是非会ひ度いネ。市川君も四四から今度はお出でらう。

では二度目の夏を元気でやらう。7、18
（裏側絵はがき「犬と兵隊 三上知治氏筆」）

76

（検閲）「㊦（解説不能）□□」

（宛先）「三十局第二出張所内 広瀬五郎君」

（差出）「第三十局 深沢T」

（本文 横書き）

広瀬君

御元氣にて何よりです。

小生も幸に無事勤務致しております。30局も中々

よい土地です。休の折にぜひ御遊びに来て下さい。

小生も一度御地を御訪ねたいです。一日も早く

一しよに動く日を持って居ます。

77

（検閲）「なし（普通郵便）」

（宛先）「中支派遣第三十野戦郵便局気付 広瀬

五郎様」

（差出）「東京市麹町区丸ノ内二ノ三 東京中央

郵便局電信課 宮S」

（本文）

暑中御見舞申上候。

日々は御苦勞様で御座居ます。

健在を御祈り申し上げます。

東京市麹町区丸ノ内二ノ三

東京中央郵便局電信課 宮S

78

（検閲）「なし 軍事郵便（手書）」

（宛先）「中支那派遣第三〇野戦郵便局 広瀬五郎様」

（差出）「小田原市早川—— 山口M㊦出 七月十一日」

（本文）

※封筒のみ

79

（検閲）「㊦（矢ノ倉）」

（宛先）「第三〇野戦局 広瀬五郎様」

（差出）「第三〇野戦局第二分局 西E」

（本文）

広瀬様

先般連絡中は種々御高配に預り、有難く厚く御礼

申し上げます。早速御礼状申上げやうと思乍、一日

延引致しました。悪からず御許下さい。

御在局中特別待属をさして戴き、不肖自分としては

は幸福者だと喜んで居ります。

ではこれにて乱筆乍御礼傍々御通知申し上げます。

皆々様宜しく御伝へ下さいませ。

（裏側絵はがき「廬山 御厨純一氏筆」）

80

（検閲）「なし（普通郵便）」

（宛先）「中支第三十野戦郵便局 広瀬五郎様」

（差出）「豊島区椎名町—— 沢口T」

（本文）

御無沙汰致しました。

其の後も御達者にて御奉公の事と思ひます。小生

従軍中は色々御世話様になりました。厚く御礼申

上ます。東京に家もなく実困ったよ。やっと見

かり元氣に毎日務居ります。君の家にも尋ねて行

ましたら、奥様病氣で休んで居りましたので失礼

して来たよ。久しく御無沙汰した事 何卒御許下

さい。

（欄外上部）御体大切に元氣にやって下さい。其

内にニユース申ます

（欄外下部）東京も毎日雨もなく暑続いでる

81

（検閲）「なし（軍事郵便（赤スタンプ）」

（宛先）「中支派遣第三〇野戦局 広瀬五郎様」

（差出）「福井県足場群東郷村 野坂T 七月三十日」

（本文）

暑中御伺ひ致し上げます

暑さの折柄、兄上様には如何に御過しで御座いま

せうか、御伺ひ致します。当方は皆丈夫で居ます

故、他事ながら御休心下さい。遙かに御健闘の程

祈り上げます。

82

（検閲）「なし（普通郵便）」

（宛先）「中支第三十野戦郵便局 局員ご一同様」

（差出）「東京市豊島区椎名町—— 沢口T」

（本文）

謹啓 時下盛夏のリ皆々様には御健勝之段、慶賀

奉り候。私儀中支方面へ征軍中は公私共格別の御

厚情を賜、誠に難有く御礼申上候。御蔭様にて海

陸共恙なく帰郷仕候間、乍他事御放念被下度候。

尚六月廿日付を以て、落合長崎郵便局へ復帰を被命候に付、将来共倍旧の御指導と御交誼を賜度奉懇願候。先は不取敢御礼傍帰還の御挨拶申述度、如斯御座候。 敬具
(欄外右空欄部)「東京に帰り家もなく実に困りました」

83

(検閲)「㊦(首藤)」
(宛先)「中支派遣第三十野戦郵便局 広瀬五郎様」
(差出)「中支明第九〇一五部隊 首藤M」
(本文)

随分暑い日が続きます、此方の暑き事、海に遠いだけ又格別です。
扱小生在蘇中は公私共に一方ならぬ御世話に相成り厚く御礼申し上げます。御かげで十日目に無事山の中の古巣に帰りつきました。離れて見ると蘇洲の数々の事が夢の様に思ひ出されます。再び長江の流れをさかのぼる時の気持は、又異なるものでした。
出発の時駅でとりました写真、あまり上出来ではありませんが、近く御送りします。
又其中無理な御願ひをするかも知れませんが、何卒よろしく御願ひします。
先は右御礼旁々御挨拶迄。 不一

84

(検閲)「なし(普通郵便)」
(宛先)「中支第三〇野戦局 広瀬五郎様」

(差出)「深川高橋—— 広瀬Z」
(本文)
拝啓陳者暑気甚ダキビシキ折柄、御前様ニハ益々元氣ニテ御勤メトノ事、皆々モ御喜ビ申上ゲ居リマス。当方モ皆無事ニ暮シテ居リマスカラ、御安心ヒ下度候。暑サノ折柄、御身ニ氣ヲツケ職務忠実ニ尽シクダサルヨウ暮々モ御願申上拜。

85

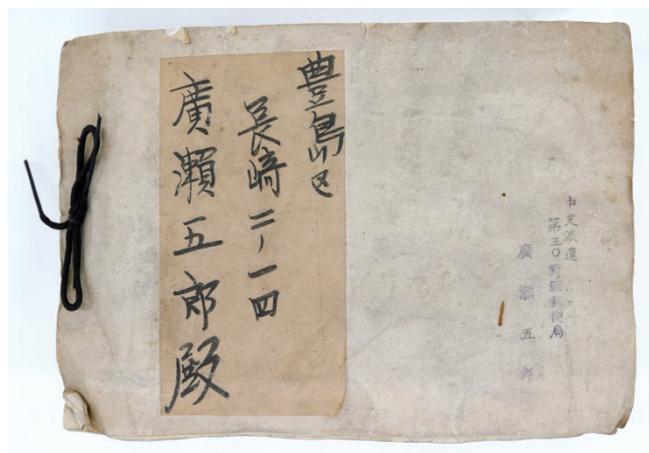
(検閲)「なし(普通郵便)」
(宛先)「中支派遣第三十野戦郵便局 広瀬五郎様」
(差出)「東京市大森区北千束町—— 宮坂S」
(本文)

拝啓 長らく御無さた致しました。
広瀬様、如何がですか、お元気ですか、お尋ね致します。小生相変わらず元氣にて働いております。乍他事御休心下さいませ。大東亜戦下帝都東京の防空は鉄壁であります。堀松二郎さんが今度野戦にゆかれる由、お伝へ致します。
末筆ながら御健在をお祈り致します。

追記

この簿冊の最初の二頁は、本文なしの封書だけが貼付されている。

一頁
(差出)「神奈川県小田原市早川—— 山口M㊦」
二頁



(簿冊裏)「戦陣の糧」

(宛先)「(消印潰レ) 中支派遣第三〇野戦郵便局第二出張所 廣瀬五郎様」
(宛先)「(消印潰レ) 中支派遣第三十野戦局第二分局 廣瀬五郎様」

(あらい) かつひろ 専修大学元教授